相 双 地 方 推 進 本 部（合併号）

○ 地方推進本部・地方農業圏確立推進協議会等・農林業団体・農業事業体等の活動状況

キウイワイン今年も販売開始（大熊町）

ＪＡ大熊町は、特産品のキウイフルーツを活用したワイン「翠（みどり）のしずく」を今年も町内の酒店で開始した。

大熊町はキウイフルーツとナシの栽培が盛んで、平成３年度からキウイワインを販売している。昨年までナシのワインも委託製造していたが、今年からキウイに一本化した。

原料は昨年収穫した大熊産キウイで、１年間熟成させて限定７８５本のワインを作った。１本７２０ミリリットルで１．３００円。ぜひお試し下さい。

研修館とコテージが「きこり」に完成（飯舘村）

飯舘村営の宿泊施設「宿泊体験館・きこり」に、新たに研修館とコテージ２棟がオープンした。

同館は村で唯一の宿泊施設で、完成した研修館は本館にマッチする北欧風のたたずまいで、鉄筋平屋建て、１００人程度の会合も開くことができる。別棟のコテージは洗面所とトイレ付きで総工事費は１億５，５００万円。

９年前にオープンした本館はレストラン、小研修室、浴場のほか宿泊室が１０部屋あり、昨年度は約２３，０００人が利用している。今回の増設で宿泊客増を期待している。

相双地方グリーン・ツーリズム推進会議を設立（相双管内）

７月１４日、相双地方グリーン・ツーリズム推進会議の設立会議が開かれた。これまで活動してきた促進協議会は、行政機関を中心としていたが、今回はグリーン・ツーリズムを実践している各種団体、施設の代表２１名を委員として構成した。

会議では会長選出により、広野公民館長の鈴木忠昭氏が会長となり、鈴木会長の議事進行のもと、相双地方のグリーン・ツーリズムの現状について説明した。

意見交換では、市町村間や実施団体などの連携不足の指摘があったほか、海と山の自然環境に恵まれた相双地方の特色を活かす意見が出された。

親子で森林づくり　うつくしま森林（もり）づくり体験交流会開催（広野町）

７月１９日、うつくしま森林（もり）づくり体験交流会が広野町の五社山ふるさとの森で開かれ、県内の緑の少年団や親子連れが参加し、雨の中ケヤキ造林地の下刈りや苗木の植栽などを体験し、暮らしを守る森林の働きや林業について理解を深めた。

この日はあいにくの雨だったが、参加者は各グループに分かれ、森の案内人の指導を受けケヤキ造林地の下刈りに挑戦した。つづいてケヤキの苗木を植栽し、森林観察会も行い、参加者は楽しい森でのひとときを過ごした。

食農教育イベント「緑の教室」開催（富岡町）

地域で作付けされている園芸作物の栽培体験を通して野菜作りに関心を持ってもらい、土に親しむことで農業後継者育成に努めようと、双葉農業普及所が企画した食農教育イベント「緑の教室」が、７月２６日に富岡町で行われた。

教室には富岡第一小学校、第二小学校の５，６年生約３０人が参加し、王塚愛彩花生産組合のビニールハウス内で蓬田栄一同生産組合代表の説明でブロッコリーの種まきを行った。

播いた種は３，４日で発芽する予定で、発芽したブロッコリーを８月１７日に定植し、１０月中旬には収穫して試食することにしている。

特産品開発へ企業組合設立（楢葉町）

楢葉町産のサケや野菜を使って特産品を生み出し、地域振興につなげようと、農家の女性や漁協、商工会関係者２５人で「ならは特産品加工企業組合」を結成した。

町では原発関連以外の産業振興が長年の課題となっており、９月に農産品加工施設が開業することから、これまで特産品づくりなどにかかわってきた町民らに呼びかけ企業組合を組織、施設の運営を任せることになった。

組合は当面、地元産の野菜などを使った漬物や切り餅などを町内で販売し、新たな特産品の研究や試作に励む。

健全な食生活相双地方推進協議会開催（相双管内）

７月３０日、原町合同庁舎において健全な食生活相双地方推進協議会が開かれ、本年度の事業計画を決めたほか、「食生活指針」の普及について現状と課題などを話し合った。

本年度の事業計画では食生活指針普及ボランティア活動への支援として講習会、学習会の開催などを行っていく。また、普及の現状と課題では、食育や食の学習のあり方、地元農林水産物の活用方法、食における「安全・安心」のあり方などについて意見を交換した。

川内村の魅力満喫！ふくしま遊学「いわなの郷自然体験分校」（川内村）

ふくしま遊学２００３「いわなの郷自然体験分校」は、８月１日から３日間にわたって川内村内で開かれた。県主催、川内村とＪＲ東日本の共催で昨年に引き続き２回目。

期間中は高塚高原ハイキングやシイタケの植菌、川遊び、そば打ち体験、昆虫採集など盛りだくさんの内容で、釣ったイワナを炭火で焼いたり、川遊びではガラス箱で水生生物の観察を行うなど、参加した親子は夏休みの楽しいひとときを過ごした。

チビッコ料理コンテストを各方部で開催（相双管内）

相馬地方調理師会、双葉地区調理師会の主催で、北相地区、南相地区、双葉地区に分かれて「チビッコ料理コンテスト」が開かれた。

今回のテーマは学校給食。１チーム５人で地元の食材を使用しアイデアメニューを競っていた。

入賞作品は１１月に行われる学校や事業所、病院などの給食担当者を対象にした発表会に出品される。また、各チームの作品は、それぞれの学校の給食に取り入れるよう提案される。

児童が「食」と「農」について理解（原町市）

原町市の第２回食農教育交流体験事業は８月８日に開かれ、市内の小学４年生から６年生までの児童約２０人が参加した。

原町市経済産業部農林課の主催で、児童が「食」と「農」について理解を深めることを目的に企画し、５月４日の田植えに続いて２回目となる。

下北高平にてトマトを収穫した後、下渋佐のジャガイモ畑で自動芋掘り機「ポテトハーベ

スター」での収穫作業を見学してジャガイモ掘りに挑戦した。
昼にはハートランドはらまちで、原町市産のタマネギやニンジンなどの野菜を使った特製カレーを食べ、食と農について理解を深めた。

〇その他・トピック事項

ヒヌマイトトンボ成虫を確認（原町市）

県のレッドデータブックで絶滅危惧種に挙げられているヒヌマイトトンボの県内唯一の生息地である原町市の鶴江川で、県発注の河川維持管理工事が行われた問題で、工事が実施された同川河口付近で、同トンボの成虫が確認された。
今回の工事では同トンボの繁殖活動には不可欠なヨシ原が一部削られたことから、研究者の間には同河川流域での絶滅の可能性が指摘されていたが、最悪の事態は免れた。
しかし、生息個体数の減少は確実で、今後は一刻も早い環境保全策の整備が必要となる。

珍魚！カラフトマス捕獲（原町市）

原町市の新田川で県内では珍しいカラフトマス（サケ科）が見つかった。
捕獲したのはメスで、体長４７．５㎝体重８８５グラム。県内では昭和６１年に楢葉町の木戸川で、５年前にも同町の高瀬川で採集されている。このほかに浜通りの河川で目撃情報はあるが、公式の確認は今回で３例目となる。